

2011年
8月15日

No.123

さざなみ

〒520-0043
大津市中央1丁目5-25
小堀マンション2030号室
さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-522-7868

広島から福島へ 絆と連帯を感じた大会

第57回日本母親大会が、7月30・31日、初めて被爆地広島で開かれ、2日間でのべ1万6千人が集まりました。さざなみネットから2人が参加しました。感想をいただきましたので、掲載します。

1日目は県立総合体育館での全体会。早めに着いて滋賀県の場所へ席を取り、非核滋賀県宣言の署名をもらおうと、シャトルバスが着く入口へ。全国から続々と集まって来られるお母さん、女性や男性も。目標の署名はすぐしてもらって会場に戻るともう一杯の人々！

「核と世界と子どもたち」と題した構成詩劇は広島から福島へと絆と連帯が感じられ、湯浅誠さんの記念講演があり、歌手のクミコさんが「INORI〜祈り」などを歌われました。

今回の大会は震災にあいながらも私たち母親連絡会が、全国から送ったカンパでこの大会に参加した人々がたくさんおられたことと、「子供2人と参加し本当

に子どもたちを守り切れるのかと思うと、涙が出てくる」と訴えられた福島のお母さんの言葉が忘れられません。

特別な思いを持って参加 核・原発は絶対にいらない

広島で開かれる日本母親大会、何か特別な思いを持って参加しました。「父と暮らせば」という映画を見ました。作家で「9条の会」の発起人の1人、井上ひさしさんは、1975年に昭和天皇が、原爆投下について、広島市民を気の毒であるが「戦争中



岩波美智子さん 画

のことだからがやむを得ないこと」といった発言に最初に切れました。1980年代中曽根首相が原爆病院を訪問して「病は気からと言いますからがんばってください」と言った発言に2度目に切れました。そして「父と暮らせば」の一幕の劇が出来上がり、さらに黒木和雄さんが映画化、世界に広がった。

燃える炎の中、父を残して生き残った娘。娘は幸福になることを拒否し続け3年後、一人の人に「ときめいた」ことにより幽霊として出てきた父に「この惨い出来事をずっと伝えてくれ、お前ができれば孫に、これはお父さんの命令や」と言われ……。そこで映画は終わります。

この惨い出来事、そして3・11後の福島原発、将来の人間の生きるべき道に、核は、核を生み出す原発は絶対なくさなくてははいけないと思いました。



2011年 第57回
日本母親大会
生命を生み出す母親は
生命を育て 生命を守ることをぞみます in 広島

第1日 全体会
7月30日 12:00~16:30 (受付開始11:00~)
広島県立総合体育館・グリーンアリーナ (広島市内)

記念講演 湯浅 誠さん (広島県ネットワーク事務局長)
「貧困なくし 人間らしく生きられる社会をつくる」
特別参加 クミコさん「INORI〜祈り〜」
*大物産展・書籍バザールあります

第2日 分科会
7月31日 10:00~15:00 (受付開始9:00~)
広島工業大学専門学校 広島県立総合体育館
中国新聞社 広島国際会議場/メモリアルホール

特別企画 吉永小百合さん 出演
原爆詩 朗読 中川あはは、西原啓祐(朗読者)へ

第57回日本母親大会実行委員会
実行幹事 中川あはは TEL:082-252-1817 FAX:082-252-1817
広島県母親大会実行委員会
広島県知事 中川あはは TEL:082-252-1817 FAX:082-252-2004
協力 中産・国際看護婦大会実行委員会
協賛 岡山・愛媛・山口・徳島・香川・高松

※子どもと養育、くらしと権利、女性の地位向上、平和など4つのテーマで話し合います。